

## 洛星新聞

父兄  
特輯号

発行所

ヴィアートル学園

洛星中学校



編 集

洛星中学校

新聞部



## 第二学期を

迎えて

フランス・ホワイト  
四十余日のたのしい夏休み  
終りまして又きつかしい学園  
生活が始まりました。夏休み中  
厳しい暑さのため生活がや  
もすれば乱れ勝ちになるの  
ですが、でも此の悪い條件の  
もとで規則正しい生活を営ん  
で行くことは身心の鍛錬に非  
常に役立つのであります。皆  
御父兄も此点を充分御了解  
下さつて御子弟の家庭に於い  
ての教育に萬全の策を御満  
下さつたことと思います。

今学期は一年中で一番落着  
いて勉強の出来る時です。此  
の季節は芝草通り高く馬肥  
える時、又煙火親しむ時です。  
スポーツのシーズンである  
と共に勉学に最も適した期  
節です。どうか此の好季に  
当つて子弟に、良く学ば  
よく遊ぶの實行を勧められ、  
かたわらよい習慣を形作る  
ことを願ひ、御尽力下さる  
ようお願い申し上げます。

今こゝで一学期の成績を  
合いたしますと、学業 行儀

共全般的に向上が認められま  
すことは極めて喜ばしいこと  
であります。そして御父兄の  
御出校を煩わして注意を申し  
上げなければならなかつた生  
徒は会員二百二十七名の内僅  
八名に過ぎませんでした。こ  
れを来年と比較して見ますと  
甚だしい比率の差があるので  
あります。こんな状態であり  
ますから、学校と家庭とが尚  
一段と相協力して努力いたし  
ますならば、必ずや有終の美  
を修めることが出来るものと  
確信いたして居ります。

## 生徒の

## 礼儀作法

について

生徒の礼儀作法について申し  
上げたいと存じます。

日本人は元来道徳心の高い  
礼儀正しい人種であると云わ  
れていました。勿論、時代の  
変遷に伴つて、これらに多少  
の高低はあつたとしても、一  
応の程度を保持して来たよう  
に思われます。



然るに一戦敗戦と云うきびしい事態に直面して、日本の社会の全般に亘つて、甚だしい変革が行われるに至つて、道徳心や礼儀作法もその根柢を失つたように、全く地に落ちてしまつて、中には民主主義、自由主義のはきちがひから、これらは前世紀の遺物であるとか、封建制度の残滓であるとか云う人さえ出来て来ました。

現在敗戦後の混乱も一応落ち着いて、日本再建の時期にはいつて参りますと、心ある日本人は青少年連の道徳や礼儀作法に対する悪感といつてよい現状を見て、愕然として、果してこれでよいのか、自分達の子供の将来、ひいては日本社会の将来はどうなることかと心配するものが多くなつてまいり、今日では学校教育に於いて、修身科の復活、或は復活しなくともこれ等の実を強くとり上げるべきであるという議論が強くなつてまいりました。

ところで本来カトリックに於いては、時代と場所の如何を問はず、次のように説いています。すなわち人間は神の創造せられた万物の中で最も偉大なるものであつて他のすべての被造物を支配するものであるから、それにふさわしい品位を保つて人間らしく行動しなければならぬ。

然も人間には他の被造物には与えられていない理性と自由意思と良心をもつてゐるので、自分の良心に従つて、自分から進んで、自由な立場からこの良心の命ずるところに従わねばならない。従つて人間は常にその理性を養ひ、真理をよりよく理解し、特に人間の道とその義務、目的を明かに認識するため、或は意志を強くし、善を好み、良心の声にはいつても素直に従うようにしなければならぬといつてゐます。

本校の教育の根本精神がこれに基いて「真の人間」をつくるにあることは申し上げるまでもないことであつて、父兄の皆様も此の奥を充分理解せられて御子弟を本校に入学させられたのであると存じて居ります。現に入学申込に際して「どうも私の子供は行儀が悪く親が出来ていないので御ります、きびしく教けていたゞくためにこの学校を選びました」と云う父兄の方が澤山おられました。本校は教育の根本方針の一つとして特に社会倫理の時間を設けて此奥を強調しております一方、朝礼の時間其の趣旨に於いて、礼儀作法の話をし、生徒の操行に就いては特に重きを置いてゐることもよく御承知のこと、存じます。

礼儀作法については、朝夕の挨拶、敬礼の仕方、建物内での行動、教室

に於ける礼法、部屋にはいるとき、食事のとき、電車バス汽車等に乘るとき、道路を歩くとき、等の礼法について教えてまいりました。

勿論その結果については、充分効果があつてゐるとは思いませんし、又直に効果がある筈であるとも考へては居りません。

然し一時的に、教えられたからその時だけその通りにする。操行の奥が惡くなるからこれを尋ると云うのでは意味をなさぬことは、云うまでもないこととあります。これらは常性座臥、反覆くり返すことによつて、自然にその身についてくるものであり、又身につけなければならぬものである。身につけることによつて終には、その人の品性となるからであります。

いくら学問があり、知識がすぐれていても、その人の道徳心が低劣であり、品性が粗野であるならば、その人は社会から愛されないことは勿論、尊敬されなければかりでなく、社会を益するどころか、却つてこれを害するおそれがあります。優れた学問、知識も立派な人格、品性を基礎にしてこそ、はじめてかゞやかしい光輝をはなつものであります。

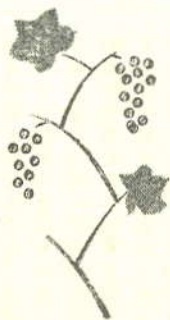
生徒の一日、二十四時間の三分の一を睡眠に費すと、残りの時間は学校と家庭でほぼ切半することに

学校に於ける時間中きびしく教へても、残りの時間を家庭で放任したならば、切實な教へるに等しいまでも、甚だしく矯正することは考えられません。それは親は常に知識だけではなく、行いであるからであります。

そこでお願い致したいことは、御家庭に於かれまして、生徒が家庭にある間は、常に礼儀作法に就いて、もこれを觀察し、注意を与え正するなど、繰り返してきびしく教へていたゞきたいのであります。そして礼儀作法が御子弟の身についてしまつよう御留意をお願いいたします。

こうすることによつて御子弟が終には立派な品性を築き上げ、他日社会へ出ても他人から尊敬せられ、愛される人間とされることと信ずるのであります。

本校に於ける礼儀作法の講義は今後も出来るだけつゞけてゆきたいと存じて居りますから、何卒御父兄の方々の御協力を御願ひ致す次第であります。





# 人の教師にあたいす

## 一人の良き母は百

家庭に於ける母の仕事は多種多岐であつて中でも衣、食、住その他家事、家政に關する仕事は妻として母としての大切な仕事ではあります。是等の母の仕事は比して一種大切な母の務は吾が子の精神をばぐくも教育者としての務であります。勿論肉体的育兒は大切な事ではあります。が人間は單に肉體だけの存在物ではなく萬物の靈長と云われている通り肉體と靈魂とを合わせたものでありますから、この靈魂の事をささかしては本當の教育も育兒も出来ません。それ故精神的の教育を、斯に人間の母としての崇高な使命があるのであります。衣、食、住に關する仕事は家庭にあつて母以外の人其の代りをする事が出来すが子女の魂を本當にばぐくむには母が一番適任者であります。勿論家庭に於ける子女の教育は母一人の仕事ではなく、父も亦母の教育活動に對して十分の理解と同情を持ち更に父には父にふさわしい父固有の能力を以て子女の教育に協力しなくてはなりません。然し家庭にあつて吾が子の教育に對して主役を占めるものは何と云つても母であります。吾が子に對する母性愛は純然として強く且つ尊いものであります。一切を犠牲にしてしかもそれを犠牲とも思わぬ絶対無私の母性愛にふれて子供の心に湧き出るものは感謝と恩慕の念であります。この杯を親心と子の心との距離に相合するところに教育の世界が開けて行くのであります。母の愛は愛の靈化として古から讃美されていま

す。

「はえは立て、立てば歩めの親心我が身に積もる老いを忘れて」これに世にもつるわしい親心を説いたものであります。然し特に母親の心が強く美しく現われて居ります。母を動かす手は、がて世界を動かすものであります。父親は子女に對して男性的なしつかりした資格のある教育を施すのであります。母親の方はやさしい暖い愛を以て子供を教育するのであります。母の愛は清く美しく強いものであり又尊いものであります。然しそれは母の愛が正しく賢明にかかれた場合の事であつてどんな母性愛でも貴族せらるべきものとは云えないでしよう。若し母が唯本能的な自己の欲望として子供を愛すると云うに過ぎないものであればそれは時に過ぎるべきものでなくなるので、眞の母となる為には本能的感情に母が子供を愛するだけではなく更にそれ以上に深く子供の

將來の事を考え子供の爲に賢明な母とならなければなりません。可愛いから可愛いと云うだけでなしに子供のためになる所に可愛がることか肝心であります。

母のもつべき第一のものは勿論愛であります。が沢にもつべきものは信仰であります。母としての母性愛は多く且つ深いものがあります。一方に於て憎みも苦しみも非常に多いものであります。信仰をもつ人はどんな苦しみも逢つても決して失望を感ずることがありません。母が信仰の力によつて強く立ちあがる時、その子供も亦感應にも迫害にも堪へ忍んで行く力が湧き起り母に倣つて勝利の生涯を送ることが出来ます。そして母が子供のために説いて祈ることとは子供にとつて大きな教訓であり力であつて自分の爲に祈つてくれる母の心を子供が思ふ時、身は遠く離れていても心は常に母の側にあつて子供は自然に愛と純潔な生活に精進せざるを得なくなるのであります。

次に母は子供の一切に對してよき理解をもたねばなりません。昔から「子を知らず親にしくはなし」と云われて居ります。が案外自分の子供を知つておらない事があるものです。「泥棒を捕えて見れば我が子なり」

の諺の通り私の子に限つてはそんな事は決してありません。などと云う母親に自分の子供の悪い事を知らないでいる事があります。母親は愛に溺れることなく子供の特徵も欠点もよく見抜き子供の立場になつて考へてやり、子供の悩みを悩み、子供の喜びを喜びことが子供に對する母の態度であつてほしいものです。特に青年期にある子女に對し母親が無理解であつたならば子女を反抗させ、自暴自棄におとしいらしめ遂に救うべからざる破目におとしこむような事があるのであります。

子女の教育は学校だけでは決して出来ません。何んと申しても小侯の教育はまず家庭に於ける母親の教育が大切であります。小侯は母親に愛される事によつて始めて人間として愛の経験をもつのであつて愛の経験は理想だけでは説明出来ません。子供は学校から帰つて来れば先づ「お母さん、はとききましう、これによつても母親は逢うのが小侯にとつてどんなにか楽しいものであるかよくおわかりでしよう。小侯は母によつて感謝すると云う気持ちもわける様になり信頼心と従順の心も教えられます。愛、感謝、信頼、従順これらのものが幼児の心に芽生えるのは先づ母親の教育によるのであります。



て、母親に対する幼児の経験が更に拡大されて他の家族に及び更に家族以外の他の人々にまで広がって行くのであります。母親を愛し得ない人は他の人々を愛する事はむづかしいのであります。母と子の間の最初の経験が次第に拡張され、社会の人々に対する愛、感謝、信頼、従順の心が培われるものであります。それが更に神と人との関係にまで進むのであります。神を信じ神の御旨に従い神に感謝し神を愛するカトリック教育の根本精神は奥にこうして育てられるのであります。

# ◇ ◇

「習慣は第二の天性となる」と申す通り幼児少年時代に養われた習慣は生涯に第二の天性となります。従つてどんな些細な言動でもいさくも良心の声に違反する様な場合には断固としてそれを排斥矯正しなければ小根が追々と成長するに及んで家庭人として又社会人として立派な人格を備えた所謂セントルマンを養成する事がむづかしいものです。本校では他の学校では別に向題にしない様な些細な事でも矯正しなければならぬ行状を認めたならば遠慮なく生徒に注意して一日も早く良い習慣を身につける努力をして居ります。就いては保護者の方々に御注意申し上げる事も度々御座います。がその点

に就いては御諒承願ひ、御家庭と学校との連絡を今後も同一層密にして戴く御協力を御願ひ致します。

## 連絡板

### ○高等学校々々建築開始

高等学校の校舎の建築についてはかねてから種々準備をすゝめていましたが、ようやく設計も完了して、入れに付した結果、中学校と同様に清水建設株式会社が担当することゝなつて、九月一日の契約を結びました。

新校舎は現在の中学校の西側の空地に、鉄筋コンクリート三階建の、現校舎と外觀全く同一の建築であつて、差当り必要を講堂と、理科教室がその三階に設備せられます。一階と二階の設備はいそぎませんから多分来年の夏休み中に整備せられることになるでせう。

着工は本月中旬、おそろくも下旬頃で、竣工は来年の二月頃とすると思ひます。

竣工のあかつきは現校舎とならんで、衣笠山の緑を背景に浴面の一角に輪奐の美をはこぶることでしょう。

### ○公教要理の課外講義

近くはじまる  
今春四月入学した一年生も早や二

学期を迎えて、学校の様子にも一と通りなじんで来たと思われまふ。

それで一年中で勉學に頼もふわしい東京の秋に、第一学年の生徒のために、あらたにカトリックの御教の大意を説いた、公教要理の課外講義を、一週に一回目をきめて、はじめたいと考えて居ります。

近く父兄の皆様宛に、受講希望の有無を、たしかめるために御手紙を差し上げて、御返事をいただくことにしています。

二年生のように全員が受講せられるよう祈つて居ります。

### ○「おやつ」廃止

去る四月から七月まで試験的に放課後「おやつ」を給与しておりました。が、父兄の方々の中には御希望なさらない方もあります。又今学期から授業時間が変更になりました。晝食が午後一時に参りますので「おやつ」のための時間を一寸つくりかねますから之を廃止することになりました。何卒御了承下さい。

### ○宿題について

宿題は左の日程に依つて毎日何かしら課されることになつています。から出された宿題は其の日の中に必ず

終え翌日に返すことのないように御指導下さるようお願いいたします。

一年		二年	
月。	木。	月。	水。
火。	金。	火。	金。
土。	土。	土。	土。
国語。	数学。	英語。	英語。
理科。	社会。	理科。	社会。
倫理。	倫理。	倫理。	倫理。

